



JST だより vol.10



世界遺産 アンコール遺跡群
バイヨン寺院ナーガ・シンハ彫像および欄干修復プロジェクト

修復工事が完了しました！



8年間 応援ありがとうございました！！



カンボジアの世界遺産、アンコール遺跡群を代表する寺院の一つバイヨン寺院は、12世紀後半にジャヤヴァルマンVII世によって建立がはじめられました。“バイヨン”とは「美しい天上の塔」を意味し、その名の通り、42mもの高さの中心塔を取り巻くように大小様々な塔が林立する寺院遺跡です。



▲バイヨン寺院の尊顔



▲修復前の正面入り口（東参道）

2020年8月31日をもって、このバイヨン寺院において2012年から8年間続いてきた「アンコール遺跡群バイヨン寺院 ナーガ・シンハ彫像および欄干修復プロジェクト」の修復が完了し、プロジェクトが終了を迎えました。このプロジェクトでは、バイヨン寺院の外回廊の入り口両脇に立つ、シンハ（ライオン）彫像、ナーガ（蛇神）彫像、そして外回廊をぐるりと囲む欄干を対象として修復事業が行われてきました。

バイヨン寺院にとって、寺院を取り囲む欄干と、入り口を護る彫像は大きく景観を左右するものであり、訪れる観光客がまず目にするものでもあります。皆様の応援とご支援のもと、9名のカンボジア人メンバーの努力のもと、壮麗な姿を取り戻すことができました。

修復前の彫像や欄干の様子

バイヨン寺院は20世紀初頭に一度はフランス極東学院による修復をうけているものの、その後の内戦や樹木などの影響で新たに崩落した箇所も少なくなく、現在も劣化や崩落が目立ちます。特にバイヨン寺院を訪れる観光客が必ず最初に目にし、そのすぐ脇を通ることになる外回廊や参道のナーガ、シンハ彫像や欄干が崩落したままでは、安全性や景観上大きな問題があり、また崩落したままの部材を放置しておくことは寺院のさらなる劣化を招く危険がありました。そこでJSTでは2012年より日本国政府アンコール遺跡救済チーム（以下JASA）の技術協力のもと、日本ユネスコ協会連盟との共同事業としてこれらの彫像や欄干の修復プロジェクトを開始することにしました。



網がけした部材は、修復前、割れたりするなどして崩落していた彫像や欄干です。

修復後の成果と様子

欄干や彫像の修復にあたっては、部材が地面や寺院床面に落ちてバラバラに砕けていたり、一部が地面に埋まっていることがありました。また、過去の修復の際に、元々の位置とはまったく違う場所に置かれてしまっていた部材も多くあり、単なる石材の修理だけでなく、寺院全域での巨大なジグソーパズルのような作業も行う必要がありました。ここではいくつかの修復前後の様子をご紹介します。

足の踏み場もないほどに欄干が散乱し、彫像もゴロンと床に放置され、踏まれてしまうことにより、粉々に割れた彫像がどんどん割れてしまうという状況でしたが、美しい姿を取り戻しました。

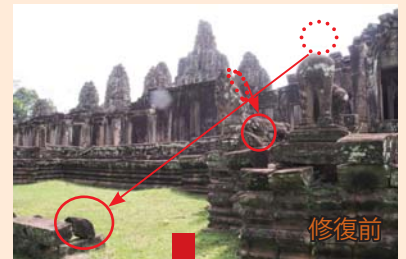


修復後

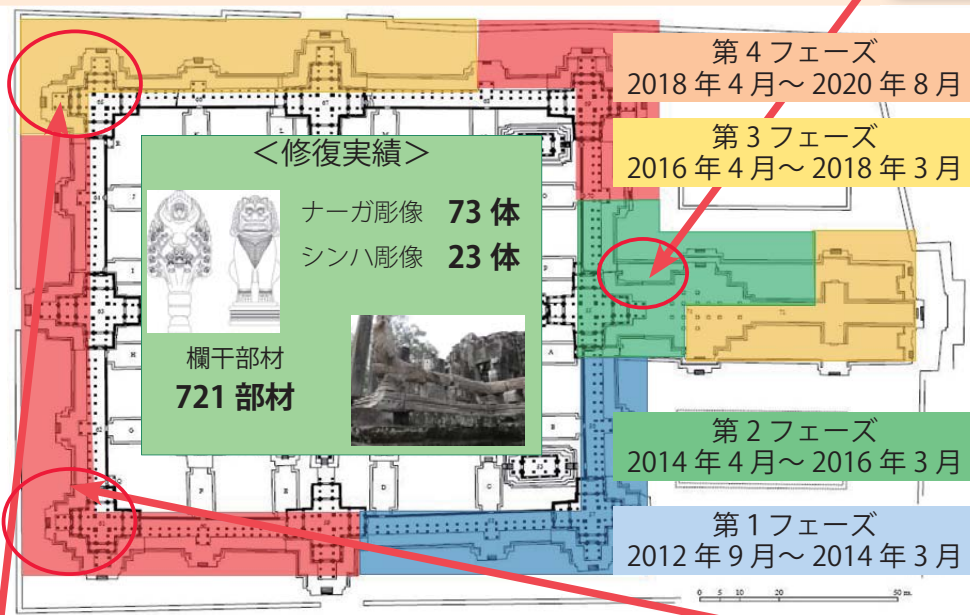


修復前

シンハ彫像の頭が地面の上に転げおち、ナーガ彫像も真っ二つに割れ、片割れが落ちていました。



修復前



修復前

ここでは多くの欄干が地面に落ちて、もはや寺院の上にはほとんど何も残っていない状態でした。

修復後



修復後